

## 新ALTとの交流会(8/10)

8月10日、国際教養科1年6組の生徒が、恒例となった長野県庁での新ALTの先生方との交流会に参加しました。毎年この交流会には8月に新規に長野県に配属されたすべてのALTが集まりますが、本校国際教養科ではその新しく見えたALTの先生方に、日本の文化や長野県の風土、伝統文化などを教えてあげながら、一緒に活動し、英会話の勉強にも役立てようとの思いで参加しています。

今年も交流会に向けて、事前に県の国際科のスタッフを学校に招いて講習会を行い、内容を検討し、十分な準備をして当日を迎えました。

当日は、けん玉・コマ回し、英語版「だるまさんが転んだ」、書道、折り紙の体験グループとパワポによる長野の文化紹介のグループに分かれ、ALTの先生方が順番にすべてを体験するというプログラムでした。それぞれのグループを担当した生徒達は、説明をすべて英語で行い、実演を交え、一緒に楽しみながら一生懸命ALTに教えていました。今年も大変有意義な交流になりました。



長野の四季を紹介



けん玉に挑戦



だるまさんが転んだ!?



折り紙のツルは難しい?



書道



終わって全員で

## 眞田ハンナさん アフリカから帰国

国際教養科3年の眞田ハンナさんが、7月15日～8月20日の35日間、アフリカのトーゴ、ガーナの2カ国へ国際ボランティアグループの一員として出かけ、無事帰国しました。今回の研修は文科省主催の「トビタテ！留学 JAPAN・日本代表プログラム」によるもので、昨年末から応募課題の準備をし、1月に応募し、書類審査、面接試験を経て、全国の高校生の中から選抜されて参加したものです。

治安や病気に対する不安のある中、風土、文化の全く違うアフリカの国へ行ってきたこと、それ自体がまず貴重な体験となったと思います。さらに、自分でテーマを持って現地の人と交流し、施設で野菜の苗を植えたり、トイレの建設を手伝ったりするボランティア活動を行い、実に多くのことを学んできたことと思います。今後、その体験を校内で発表してもらう予定です。



けん玉を紹介



孤児院の全員で手形アートを製作



子供たちとともに

## 先輩の話(8/25)

8月25日、国際教養科の2年生は英語理解の授業で、国際教養大学へ進学した先輩の話を聞きました。講師は、本校国際教養科卒業生の南沢しおりさんで、現在国際教養大学の1年生です。国際教養大学は秋田県にある公立大学で、授業はすべて英語で行われ、1年次には寮に入り、外国から来た留学生と相部屋になって生活し、また在学中に1年間留学が課せられるという、極めて先進的な大学です。

南沢さんからは大学の概要や、現在勉強していること、大学生活、そして現役時代の勉強の仕方など、写真を見せてもらいながら、いろいろな話を聞かせてもらいました。どうしてもこの大学に行きたかったという強い思いが難関大学への合格につながったという話を聞き、生徒たちも進路に向けての決意を新たにしていました。



南沢しおりさん



熱心に話を聞く生徒たち